

# 松蔭浩之



まつかげひろゆき：  
アーティスト。1965  
年福岡生まれ。88  
年大阪芸術大学卒  
業。個展を中心に  
国内外で活動。写真、グラフィッ  
クデザイン、ライターなど幅広く手  
掛け。アート集団「昭和40年会」  
宇治野宗輝とのロック・デュオ「ゴ  
ージャラス」での音楽活動でも知  
られる。



eye ---- Hiroyuki Matsukage 2000

## 笑って砕ける

「忙しい」……一番口にしたくない言葉だ。引く手あまたで八面六臂の人気者を気取るにも、貧乏暇無しと助けを乞うにも、乗り気でない誘いを断る際にも、キレが悪いというかスマートでないというか……そう、美しいのだ。なんて始めると、「暇です」が挨拶代りの不景気な世の中なのに、「なにを気取ってやがるんだ、時流知らずの芸術家め」と怒鳴られるかもしれない。しかし聞いてほしい。これはアートにかかわる話というよりむしろ、オレの考える理想の人間像を導き出そうとする試みのだから。

「なんどきでも余裕ある態度で、着こなしも振る舞いもエレガントであるべき」という意地にも似たスローガンをオレは掲げている。芸術家という一般的なには、「だらしなくて / 変わり者で / ちょっとイチャってたりキチャってたりする」イメージだろうか。たしかにオレもいままで就職せず、ある意味、着の身着のまま、誰に頼まれたでもない自問自答を繰り返しながら試行錯誤を繰り返してきた。「フリーター？」といわれて返す言葉もない。しかしオレには、超人願望というか「芸術家とは、とことんカッコよくて長けていなければならない」という目標があって、その実験場としてこの世界を選んで表現を続けている。だからこそ、そこで他からナメられないように、いっばしのマナーや道德観念を身につけ、徹底的に強く優雅に美しく、そして楽しく生きるべきだと考えている。それはまさに芸術そのものの役割だと言い換えてもよい。芸術とは、まったく個人的なエゴや疑問や好奇心に端を発していながら、驚異的なまでに普遍的で純粋なる“愛の結晶”だ。いかに荒んだ生活をおくった芸術家や、怒りや恐れ苦しみを基盤にする作家でも、彼らが表出させるのは、観客を豊かな心地に誘い、時に価値観さえも変容させるほどの、大きくて絶対的な“美”なのだ。

さてそこで、現代の日本でそこそこ裕福な家庭に生まれ育ち、食べるにも着るにも不自由をしたことのないオレたちがそんな領域を探究し表現するということは、「もう徹底的に幸せになってみるしか道はない」と考えるのだ。「とことん大きくなる」のほうがいいだろうか。そんな理想を体現すべく、この世界に飛び込んでからはや15年、結果オレは、バカと呼ばれても仕方がないほどのオプティミスト(楽道家)に成長した。肝心な個展のオープン初日が雨にみまわれれば、「かえって縁起がいい

よ。明日からは晴れてお客もジャンジャン来るさ」と開き直るし、怪我すれば、「これくらいの軽い傷でよかった。もっと無理したら大怪我につながったかも。ドンマイ！」と自らを励まし、電車が止まれば、「よし、歩くぞ！ いい運動になる」と跳び出す始末……もちろんグッタリもする。そんな時はすぐさま、大量のアルコールと美女の微笑の力を借りて、たちまちリカバーする単純で明朗な心と体。そう、結局のところ「忙しい」という言葉は、自己弁護あるいは逃げ口上だ。豊かでおおらかで力強くなってはならないという意志に反するゆえに美しくない。といいつつも最近、いやずっと以前から、この「忙しい」を連発しているのは、実のところオレ本人なのだと自白せねばならない。怠け癖がついたか、体力の低下が原因で能率が悪化しているのか、なににせよオーバーブッキングが災いして、不眠不休が続き暇になる兆しが見えないのだ。いかんなどと思いつつも、弱音を吐くような形で、「ウーン忙しいねえ」がダラリと流れ出る。

もはやここでお終いかと危機すら感じていたところ、またしてもパワーがみなぎるきっかけをつかんだ。それはなんとワールドカップ、「韓国VSイタリア」戦の韓国の勝利。「また単純な」と笑われるならそれまでだが、強烈に美しいゲームだった。自国の敗退を理由に卑い酒に走り、この最高のカードを見逃した人は、一生後悔しなければならぬ。韓国の勝利/日本の敗退。この明暗は、対戦国や技術の問題というより、精神力の差にある。「勝ちたい」という希望を一心に参戦した日本。一方韓国には、「勝つべき」という強烈な意志を国全体で放出していた。絶対不滅のガッツを目の前にして、オレは若いころ共感した三島由紀夫のエッセイにある、「～になりたいではなく、～になるべきだと考えて望むべきだ」を再認識し復活したのだ。

忙殺の果てに弱気になって、「いったいこの国にARTは必要なのだろうか？」なんて愚問にうなされている場合ではない。少なくともオレには必要だとわかっているだけでも充分ではないか。伝えるべきことを表現するための「方法」と発表する「場所」があり、伝えたいという衝動と、いまだ滅びぬ「肉体」があり、それを受け止める観客がいる。さっさと「忙しい」なんて強迫観念をとまなつたこの悪しき呪文を、追放してもっと大きく太くならねば。下手なことは考えるな！ 笑って砕けるだ。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)